道徳科における「主体的・対話的で深い学び」

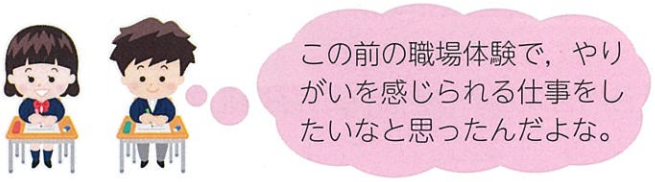
新しい学習指導要領では，「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行い，学校教育における質の高い学びを実現する中で，子供たちが学習内容を深く理解し，資質・能力を身に付け，生涯にわたって能動的に学び続けるようにすることが求められています。

主体的な学び

➢**問題意識をもつ**
- 身近な問題や社会問題から考える。
- 教材の中に描かれている問題に気付く。

➢**自分自身との関わりで捉え，考える**
- 日常生活の経験や共通体験を想起する。
- 自分の体験を基に考える。

➢**自らを振り返る**
- ポートフォリオ等で学習状況を自ら把握し，振り返る。



対話的な学び

➢**協働・対話・連携する**
- 教材や体験等から考えたこと，感じたことを発表する。
- 専門家や保護者，地域住民等の考えに触れる。

➢**多面的・多角的に考える**
- 葛藤や衝突が生じる場面について話し合い，異なる意見に触れる。

➢**自らを振り返る**
- 教材を通じて自己を見つめる。

発達の段階や個人の特性等を踏まえれば，教員が介在することにより「対話的な学び」が実現できる場合もあります。また，言葉によって伝えるだけではなく，多様な表現を認めることも大切です。

深い学び

➢**読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習**
- 教材の登場人物の判断と心情を自分との関わりにおいて多面的・多角的に考える。

➢**様々な道徳的諸価値に関わる問題や課題を主体的に解決する学習**
- 問題場面における道徳的価値の意味を考える。

➢**道徳的行為に関する体験的な学習**
- 疑似体験的な活動（役割演技等）を通して，実際の問題場面を実感を伴って理解する。

左の三つの学習は，「道徳科における質の高い指導方法（イメージ）」として示されています。「つばさ49号」を参考にしてください。

深い学びを実現するためには，「見方・考え方」を働かせることが大切です。「様々な事象を道徳的価値の理解を基に，自己との関わりで（広い視野から）*多面的・多角的に捉え，自己の（人間としての）*生き方について考えること」（道徳科における「見方・考え方」）を念頭に，子供たちが主体となって学べる指導の計画を立てましょう。（　）*は，中学校

大切

「主体的・対話的で深い学び」を通して，道徳科の目標である「道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度を育てる」ことが大切です。質の高い学びを実現し，問題場面や判断しなければならない場面に出会ったとき，道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し，実践できる子供たちを育成していきましょう。